5A

稲淵川西遺跡現地説明会資料

1977年1月29日

奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部

1. 調査の経過

- 本調査は、飛鳥国営歴史公園祝戸地区駐車場予定地の事前調査として、奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部が実施したものである。
- 調査は、1976年12月7日に開始した。
- 調査地は、明日香村稲淵字菖蒲池25、26番地にあたり、現況は水田であった。
- 調査範囲は、駐車場用地の全域、東西約27m、南北約30m、発掘面積は720㎡である。

2. 遺構の概略

SB001　梁行2間、桁行4間以上の東西棟掘立柱建物。柱間は3m（10尺）等間。

SB002　SB001の南に接する梁行3間、桁行不明の南北棟掘立柱建物。梁行柱間は中央間3.6m（12尺）、両端間2.4m（8尺）。

SA003　SB001の東妻側を鍵の手にかこむ掘立柱塀。南北4間、東西1間。

SA004　東西4間以上。西端で南へ鍵の手に折れる掘立柱塀。柱間2.1m前後。

SA005　SA004と対応する掘立柱塀、東西3間以上、西端で北へ折れ、10間。柱間2.1m～3.5m。

SA006　南北方向の掘立柱塀。1間以上。柱間1.8m。

SA007　SA006と柱筋が一致する南北方向の掘立柱塀。10間以上。柱間1.75m。SA006北端とSA007南端の間は3.8m。

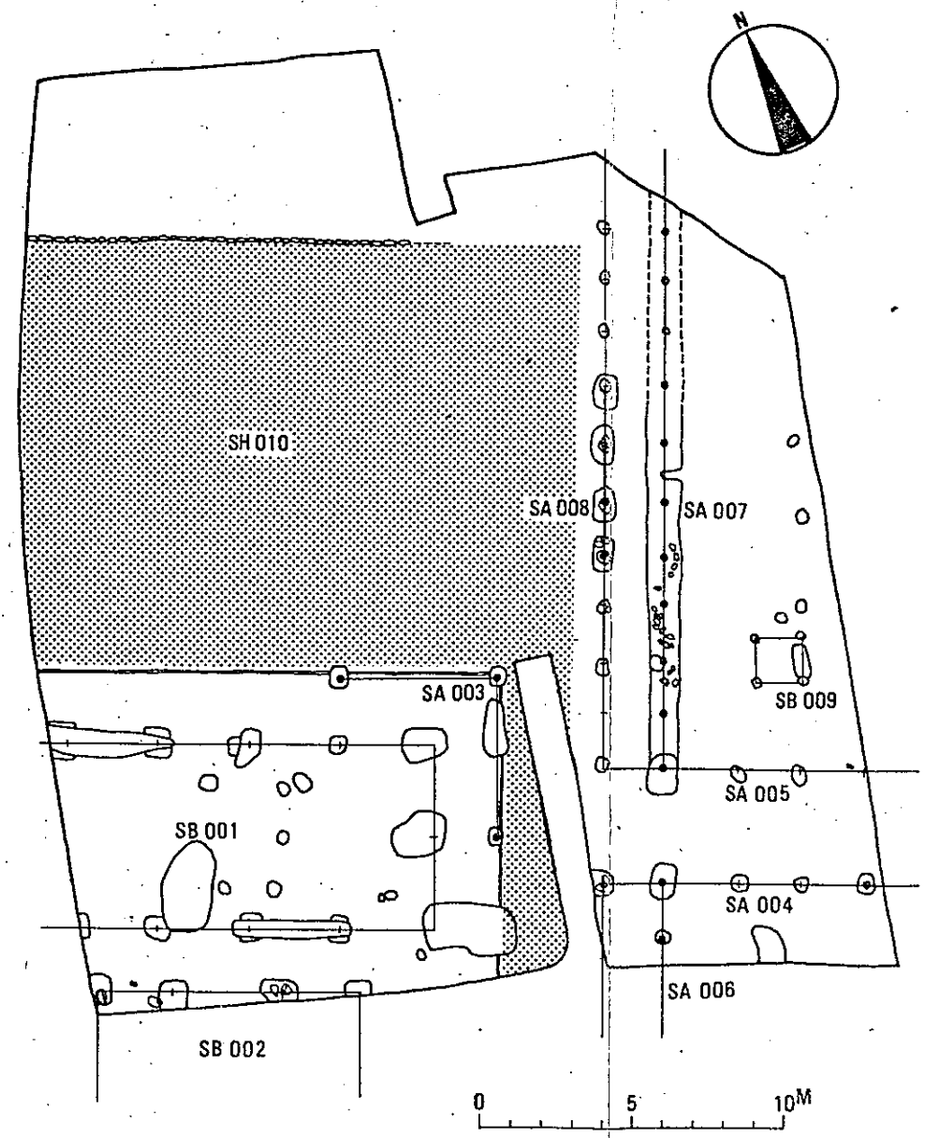
SA008　SA007に平行する南北2間の掘立柱塀。SA007の西2.0mに位置する。

SB009　1間×1間の小規模な掘立柱建物。柱間1.5m。

SH010　東西18m以上、南北14mの石敷広場。一辺40cm前後の花崗岩川原石を主として、全面に石を敷く。北は高さ15cm前後の石列で限り、南はSB001の基壇側板かとも考えられる板材で画す。東は、敷石抜取痕からSA008付近と推定され、西は調査区外へ拡がる。SA003とSA004・005の間（2.2m）にも敷石抜取り痕がみられるから、石敷面はさらに南へ帯状に延長する可能性が大きい。

3. 遺物の概略

- 出土遺物は現在、整理作業中である。
- 全体として土師器・須恵器などの土器類が多く、瓦類は極めて少ない。軒瓦は出土していない。
- 遺構に関連する遺物には7世紀後半のものが多い。
- 敷石間に残る焼土中には7世紀末頃の土器が含まれている。
- 敷石抜取り痕には、中・近世の土器類が含まれている。

4. 遺跡の概要

- 調査では掘立柱建物3、石敷広場1、掘立柱塀6を検出したが、遺跡全体からすると一部
- 検出遺構はほぼ同時期の造営であるが、掘立柱塀ではSA004・005とSA006～008とに先後関係が指摘できる。前者が先行する。
- 遺跡の年代は7世紀中頃と考えられる。焼土層の存在から、7世紀末頃に罹災した可能性が大きい。
- 建物をとりまく石敷の存在や、瓦類が出土しないことなど、寺院跡とは考えがたく、本遺跡は宮殿跡の性格が濃い。
- 本遺跡は、今回の調査で始めて明らかにされたが、上記のように、飛鳥を知る上で不可欠な貴重な遺跡ということができる。